

地域の眺めに対する住民の想起特性

—岐阜県恵那市大井町を対象として—

1X10D068-1 西村 奏絵*

Kanae NISHIMURA

地域の眺めから想起する内容は人によって様々である。眺めの種別と想起のし方の特性を明らかにすること目的として、岐阜県恵那市大井町の住民へインタビュー実験を行った。その結果のクラスター分析から場所・風景連想展開型、要素連想飛躍型、エピソード・体験回想型、知識披露型の4つの想起特性を明らかにした。

Keywords : 景観認識、眺め、想起、半構造化インタビュー

1. 研究の背景と目的

1.1 研究の背景

人々は、日常生活においていくつもの風景を目にしている。それらのほとんどは特に意識されることなく人々の前をながめしていく。しかし、ふと立ち止まって見たときの風景や何となく目に入ってきた風景を見て人は各自に思いを巡らす。思いを巡らすことの背景は体験や知識といった記憶によって一人一人様々である。見知らぬ土地に赴いてふと目に入った風景を見ていると故郷を思い出すという一連の流れもまたそれにあたる。

建部¹⁾によると、「人間は、日常生活の中で体験する様々な空間の断片を核としながら、自分なりの内的空間を形成する。この形成された内的空間のうち、多くは時間の経過と共に忘れ去らされていくが、あるものは記憶として定着する。記憶として定着したものは、何か価値や意味を持って我々に働きかける風景であり、その風景が心の中で醸成されたものが「心象風景」となる。心象風景こそが、都市や生活の固有性を表象するものである(p217)」という。つまり、一人一人に異なる心象風景があり、それらが目の前の風景に対する想起に関係してくと考えられる。その風景と想起の関係を明らかにするためには、明確化されにくい人の内面における、眺めを見てから想起するに至るまでの一連の流れを取り出して、記述することが必要となる。

1.2 研究の目的

人が地域の眺めを見たときに想起する内容は、その人の過去や記憶によって異なる。しかし、想起内容は異なっても、想起のし方に傾向があるのではないかという仮説のもと、住民が地域の眺めを見た際の想起特性を明らかにすること目的とする。岐阜県恵那市大井町を対象として、住民に対するインタビュー実験を行い、発話データから想起特性を明らかにする。

2. 既存研究と本研究の位置づけ

2.1 既存研究

1) 景観認識に関する研究

佐々木²⁾は、地域景観認識の構造を、主体の風景生成という観点から整理し、地域景観認識モデルを作業仮説的に提示した。地域を生きる住民が自らの地域の景観を認識するということを、「行動」、「意識化」、「登録」という簡略化したモデルで提示した。眺めや行為の記憶の集積として個々人に蓄積されるものを地域体験記憶とし(行動)、その地域体験記憶の一部が関係づけられ、関連性をもったまとまりが地域の景観イメージとなり(意識化)、それが時間の経過とともに差別化され自分自身の中の代表景観となる(登録)。この研究は既存の景観認識における過程をまとめ、新たな地域景観認識モデルを提示し、そこから景観研究の進め方を考えていくという研究である。

中村ら³⁾は、被験者が撮影した写真を用いて自由連想法を用いたアンケート調査を行い、現地提供像連関、意味追加型連関、連想的連関の3つの連関構造を抽出した。さらに現地提供像連関を単純SEQUENCE型、LANDMARK型、CROSS-REFERENCE型、PAN型、見返り型、ZOOM型、入れ子型の7種類に分類した。これらの連関構造の組み合わせにより、断片的な視覚像やそれに付加される意味内容が多数連関し、豊かな景観認識が展開されるとしている。この研究では連関構造の抽出を踏まえ、画像とテキストにより複合的に構成される景観認識の連関の全体構造を把握し、連関構造を忠実に再現するモデル構造として、ハイパーテキスト構造の可能性を指摘している。

2) 想起に関する研究

寺西ら⁴⁾は、心象風景の形成・想起要因として、視覚的機能条件や視覚物的機能条件に加えて、都市の規模や機能・構造、対象圏域の大きさ、現実空間の問題、人間の問題、現実の空間

と人間の関連性の問題、風景の中での人間の存在状況、風景の雰囲気、風景の中の要素があるという仮説のもとに、心象風景の形成・想起要因を明確化した。この研究では、現実の空間から人間による「知覚」、「記憶」、「醸成」、「想起」、「心象風景」という過程を経て、心象場所が現れるとしている。

藤井⁵は、住民に対するイメージマップ作成と場所の眺めから連想する事に関する実験を行った。被験者の言語報告によるデータと言語表現に伴う行動データを統合した量的データを記述するプロトコル分析を行うことで、地域イメージの想起プロセスについて考えている。眺めから連想することを把握する実験では、被験者に写真を提示し想起されることを語ってもらうことで、想起する内容には人により固有であるが、ある脈絡のもとに連想され、語られていることが考えられ、写真と想起から街路印象型、過去想起施設型、街路型特性景型、眺望景型に分類された。また眺望景は特に人の語り方や連想の仕方に影響を及ぼすことがわかっている。

2.2 本研究の位置づけ

既存研究より、地域イメージの抽出に至るまでの過程に関する研究は進められている。本研究では、特に藤井の研究における眺めから連想することに着目し、対象地を変えて行うことで、住民が地域の眺めを見た際の想起特性を明らかにする。

3. 対象地の選定

3.1 対象地の選定

本研究では、地域に住む人が眺めを見たときにどのような想起をするのかを把握する必要がある。そのため地域住民に研究の協力を得るためにも景観やまちづくりに意欲的である地域を対象とすることが望ましい。そこで平成 23 年に歴史的風致維持向上計画の認定を受け平成 24 年に景観計画を策定、平成 25 年には住民参加型の大井“歴まち地区”ワークショップ（以下 WS）を行った岐阜県恵那市大井町を対象地とする。この WS は全 4 回行われ、まちづくりの議論をしていく中で、住民が地域をどのように眺めているのかという議論も行われたため、選定した。

3.2 対象地概要

平成 24 年 4 月 1 日現在、大井町の人口は 13,302 人⁶であり、恵那市全体で最も人口が多い町である。恵那市には 13 の地域自治区が存在し、その中に大井町地域自治区が存在する⁷。大井町の中心地には中山道が通り、中心地を離れた山間部には恵那峡や大井ダムが存在する。

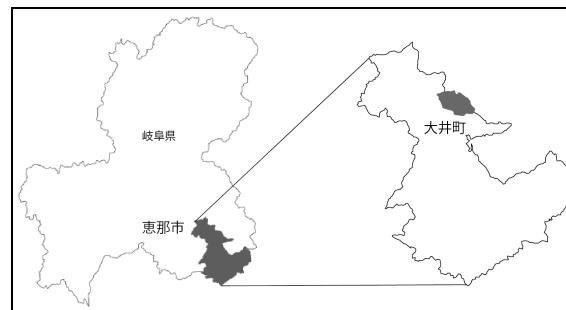


図3.1 恵那市大井町の位置

4. 仮説と実験方法

4.1 仮説

本研究における仮説を以下に示す。

- ・仮説 1. 対象によって想起のし方に違いがあるのではないか。
- ・仮説 2. 想起のし方には以下の 2 種類があり、意味記憶には 5 つの分類カテゴリーがあるのではないか。

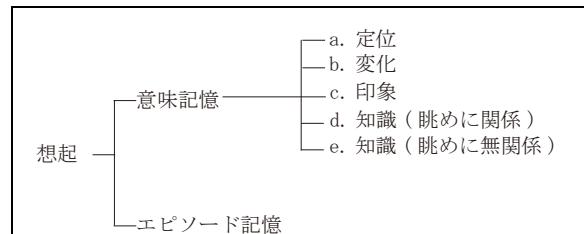


図4.1 想起内容の分類カテゴリー

本研究では、眺めに対する想起内容を抽出するため、想起の基となる記憶を基準に想起内容を分類する。想起の基となる記憶は、意味記憶とエピソード記憶に大別されると考えられている⁸。前者は、一般的な事柄や知識、概念であり、後者は個人の体験に基づく情報を指す。

4.2 実験方法

本研究では、眺めをみたときに想起された内容を発話により抽出する。そのため発話データをとるインタビュー実験を行う。実験方法に関して予備実験を行い、その結果を踏まえて本実験の実験方法を以下のようにした。

1) 実験方法

インタビューには、構造化インタビュー・半構造化インタビュー・非構造化インタビューの 3 種類がある⁹。本研究では、質的データを得るとともにデータ整理の複雑さを回避するため、質問項目を設定し、柔軟に対応する半構造化インタビューを用いることとする。仮説をもとに想起内容が抽出できる質問項目を 5 つ設定した。

2) 眺めの選定

眺めの選定に際しては、住民の興味や関心が向けられているものを選定する必要があるため住民によって撮影された第1回大井“歴まち地区”WSの宿題の写真を用いることとする。これは参加者に使い捨てカメラを配布し後日郵送にて送られてきたものである。宿題として撮影された写真は、16人による計376枚であった。これらの中から同一の場所・対象を複数人が撮影した36カ所を代表的眺めの候補とした。代表的眺めの候補には、同じ場所を撮影していても、着目しているものが異なる写真も含まれているため、同じものに着目していると思われるものを計23枚抽出した。予備実験を行い計15枚の写真を本実験で用いた。

5. インタビュー実験

5.1 実験概要

実験は、大井町内の行在所で2013年12月6日から12月9日にかけて計12名に行った。行在所は明治天皇巡行の際の宿泊所である。

実験は、1対1の対面式インタビューで行い、記録はインタビュー用紙とボイスレコーダーで行う。また、写真を提示する実験であるため、被験者が写真のどこを指したか把握できるよう手元だけビデオカメラで撮影した。インタビューは被験者にとって説明文や手順が変わらないようにインタビュー用紙を作成し、写真ごとに記入できるような様式とした。写真の提示方法については、実験の序盤や終盤で想起内容に偏りがでることを予想し、提示する写真の順番を工夫した。また、実験の最後にアンケートとして被験者の属性などを記入してもらい、実験終了とした。



図5.1 実験で用いたインタビュー用紙



図5.2 実験で用いた写真一覧(15枚)

5.2 被験者

被験者は大井町に住む住民で、大井“歴まち地区”WS参加者を中心に依頼した。被験者の属性を表5.1に示す。

表5.1 被験者属性

	性別	年齢	職業	居住歴	地理的熟知度
1	女	30代	主婦	15	2
2	女	60代	主婦	59	2
3	女	60代	自営業	42	3
4	男	70代	無職	65	2
5	男	80代	無職	40	3
6	男	40代	会社員	34	2
7	男	60代	庭師	45	3
8	女	60代	自営業	23	3
9	女	60代	無職	30	4
10	男	60代	無職	33	3
11	女	50代	無職	31	3
12	男	80代	無職	55	2

6. 分析と考察

6.1 想起内容のデータ化

発話状態のままでは分析が難しいため、インタビューによって得られた想起内容をデータ化する。発話内容をデータ化する方法として、4.1の仮説における分類カテゴリーをもとに発話内容にラベルをつける。実験によって得られた発話内容は、インタビュー用紙に記載しており、補足的にボイスレコーダーに録音している。インタビュー用紙におけるメモは、発話内容の事柄を記載しており、これらの事柄ごとにラベルをつけ、データ化する。ラベルの種類は、意味記憶に関しては連想度と意味指標を組み合わせたラベル、エピソード記憶に関しては連想度のみをラベルとして付加した。

本研究における分析は、表6.1に示す分類カテゴリーで行う。

表6.1 連想度と意味指標の表記例

連想度		意味指標	
0	写真内そのものについて語られるとき	a	環境の定位
1	写真内と同じ場所であるが、写っていない人やものについて語られるとき	b	環境の変化
		c	環境の印象/イメージ
2	写真外の場所における人やものについて語られるとき	d	環境の知識
3	発話内容が対象地を大きく外れるとき	e	環境の要望/希望

6.2 単純集計

ラベル化されたデータを用いて質問項目ごとに単純集計を行った。質問①の眺めを知っているかという質問について写真別の認知度を図6.1、質問②の眺めについて知っていることを意味記憶、③眺めにおける思い出をエピソード記憶とし、それぞれのラベル実数を写真別に図6.2に示す。また意味記憶とエピソード記憶における連想度のラベル実数を写真別に図6.3、意味記憶における意味指標のラベル実数を図6.4に示す。

単純集計の結果から全体的に意味記憶の割合がエピソード記憶よりも高いことがわかる。また、写真によって連想度や意味記憶における意味指標の割合が異なることがわかる。

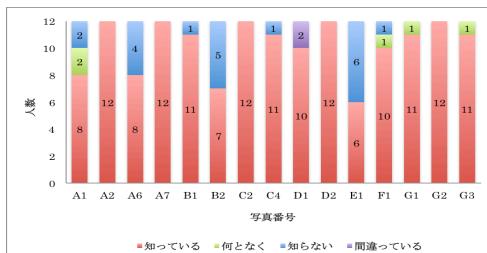


图6.1 眺めの認知度

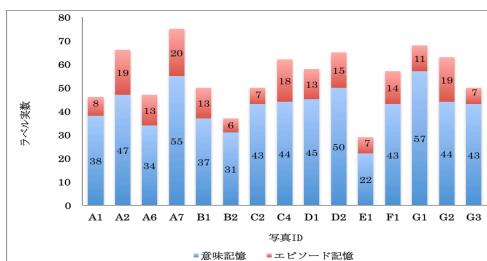


图6.2 写真別意味記憶とエピソード記憶のラベル実数

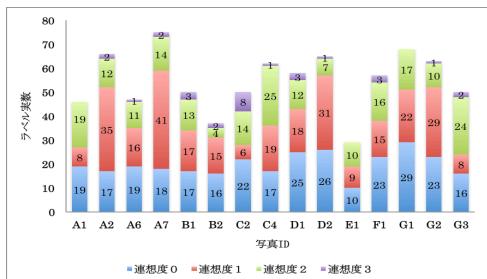


图6.3 写真別連想度のラベル実数

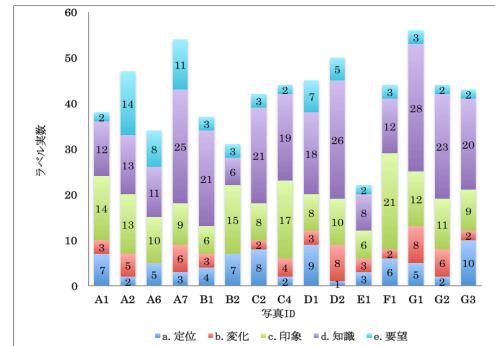


图6.4 写真別意味指標のラベル実数

6.3 考察

単純集計の結果から、写真別に傾向があるのではないかと考えられる。15枚の眺めを撮影された対象からA建物、B寺・神社、C点景、D街路、E眺望、F水路、G樹木・河川の7つのグループで特徴の見られたグループについて、また被験者に共通する特徴的な眺めについて以下にまとめた。

A建物やG樹木・河川に分類された写真に対する発話は、思い出を語るエピソード記憶に関する発話が多かったため発話内容として様々な種類の発話が得られた。一方でC点景やD街路に分類された写真に対する発話は、被験者間で共通的な発話が多くあった。

特徴的な眺めとしてA7、D1、G2が挙げられる。A7は広重美術館の眺めであり、被験者に共通して美術館に関する賛否の意見が出された。D1は代々続く個人の家を含む街路の写真であり、写真には写っていない市神社で正月に行われる七日市について語られることから、住民にとって七日市が重要な行事であることがわかった。またG2は阿木川を中心とする眺望的な眺めであり、複数の被験者から同じ対象に対する思い出が語られた。

6.4 クラスター分析

単純集計の結果から写真別の傾向をみるために、表6.2に示すデータを用いてクラスター分析を行った結果、5つのクラスターに分類した。変数は意味記憶、エピソード記憶の両方における連想度4種類と意味記憶における5つの意味指標とエピソード記憶を加えた6種類、合計計10種類とした。エピソード記憶は、便宜上分類カテゴリーfとし a~fを行為指標とする。

クラスター分析の結果の結果、15枚の眺めから場所・風景連想展開型、要素連想飛躍型、エピソード・体験回想型、知識披露型の4つの眺めの特性を抽出した。それぞれの型の眺め、眺めの特徴、行為指標と連想度の割合を図6.5にまとめる。

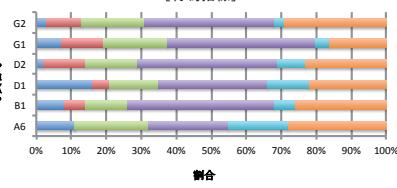
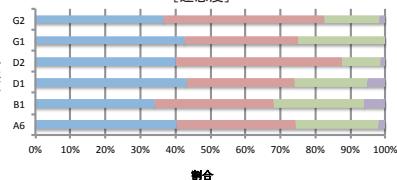
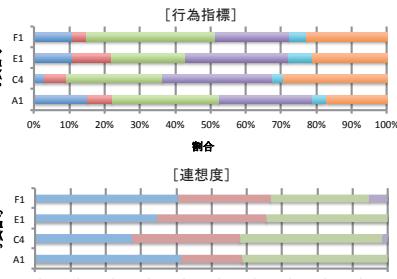
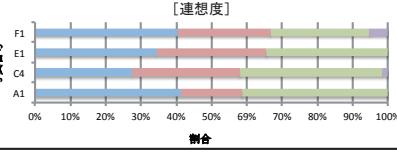
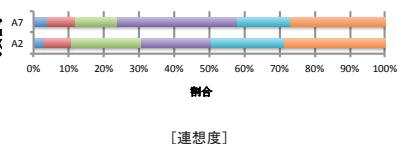
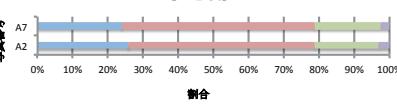
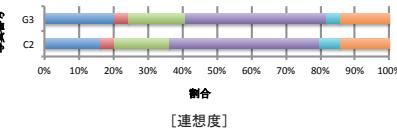
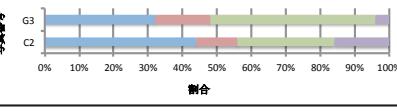
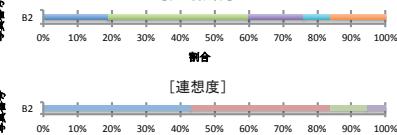
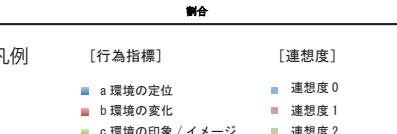
	写真	解説	グラフ																																																																														
場所・風景連想展開型	     	風景・場所連想展開型は、眺めの風景や場所そのものの指摘から写真内での思い出、写真外の場所と徐々に連想度が上がっていく眺めである。眺めの種類としては、特徴的な建物や近景から遠景まで含む奥行きのある眺めが多い。	<p>【行為指標】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Indicators</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>G2</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>G1</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>D2</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>D1</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>B1</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>A6</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> </tbody> </table> <p>【連想度】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Degree</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>G2</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>G2</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>G2</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>G1</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>G1</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>G1</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>D2</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>D2</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>D2</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>D1</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>D1</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>D1</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>B1</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>B1</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>B1</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>A6</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>A6</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>A6</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> </tbody> </table>	Category	Indicators	Percentage	G2	a, b, c, d, e, f, g	~75%	G1	a, b, c, d, e, f, g	~75%	D2	a, b, c, d, e, f, g	~75%	D1	a, b, c, d, e, f, g	~75%	B1	a, b, c, d, e, f, g	~75%	A6	a, b, c, d, e, f, g	~75%	Category	Degree	Percentage	G2	0	~5%	G2	1	~85%	G2	2	~10%	G1	0	~5%	G1	1	~85%	G1	2	~10%	D2	0	~5%	D2	1	~85%	D2	2	~10%	D1	0	~5%	D1	1	~85%	D1	2	~10%	B1	0	~5%	B1	1	~85%	B1	2	~10%	A6	0	~5%	A6	1	~85%	A6	2	~10%
Category	Indicators	Percentage																																																																															
G2	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
G1	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
D2	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
D1	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
B1	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
A6	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
Category	Degree	Percentage																																																																															
G2	0	~5%																																																																															
G2	1	~85%																																																																															
G2	2	~10%																																																																															
G1	0	~5%																																																																															
G1	1	~85%																																																																															
G1	2	~10%																																																																															
D2	0	~5%																																																																															
D2	1	~85%																																																																															
D2	2	~10%																																																																															
D1	0	~5%																																																																															
D1	1	~85%																																																																															
D1	2	~10%																																																																															
B1	0	~5%																																																																															
B1	1	~85%																																																																															
B1	2	~10%																																																																															
A6	0	~5%																																																																															
A6	1	~85%																																																																															
A6	2	~10%																																																																															
要素連想飛躍型	   	要素連想飛躍型は、眺めの要素から写真外における発話へと連想度が飛躍する眺めである。眺めの種類としては、要素的に特徴のある眺めが多い。	<p>【行為指標】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Indicators</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>C4</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>A1</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>E1</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>F1</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>A1</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> </tbody> </table> <p>【連想度】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Degree</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>C4</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>C4</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>C4</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>A1</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>A1</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>A1</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>E1</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>E1</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>E1</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>F1</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>F1</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>F1</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>A1</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>A1</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>A1</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> </tbody> </table>	Category	Indicators	Percentage	C4	a, b, c, d, e, f, g	~75%	A1	a, b, c, d, e, f, g	~75%	E1	a, b, c, d, e, f, g	~75%	F1	a, b, c, d, e, f, g	~75%	A1	a, b, c, d, e, f, g	~75%	Category	Degree	Percentage	C4	0	~5%	C4	1	~85%	C4	2	~10%	A1	0	~5%	A1	1	~85%	A1	2	~10%	E1	0	~5%	E1	1	~85%	E1	2	~10%	F1	0	~5%	F1	1	~85%	F1	2	~10%	A1	0	~5%	A1	1	~85%	A1	2	~10%												
Category	Indicators	Percentage																																																																															
C4	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
A1	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
E1	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
F1	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
A1	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
Category	Degree	Percentage																																																																															
C4	0	~5%																																																																															
C4	1	~85%																																																																															
C4	2	~10%																																																																															
A1	0	~5%																																																																															
A1	1	~85%																																																																															
A1	2	~10%																																																																															
E1	0	~5%																																																																															
E1	1	~85%																																																																															
E1	2	~10%																																																																															
F1	0	~5%																																																																															
F1	1	~85%																																																																															
F1	2	~10%																																																																															
A1	0	~5%																																																																															
A1	1	~85%																																																																															
A1	2	~10%																																																																															
エピソード・体験回想型	 	エピソード・体験回想型は、眺めにおける思い出が多い眺めである。そのため写真内と同じ場所であるが写っていない人やものについて語る連想度1の割合が高い。	<p>【行為指標】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Indicators</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A7</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>A2</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> </tbody> </table> <p>【連想度】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Degree</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A7</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>A7</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>A7</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>A2</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>A2</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>A2</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> </tbody> </table>	Category	Indicators	Percentage	A7	a, b, c, d, e, f, g	~75%	A2	a, b, c, d, e, f, g	~75%	Category	Degree	Percentage	A7	0	~5%	A7	1	~85%	A7	2	~10%	A2	0	~5%	A2	1	~85%	A2	2	~10%																																																
Category	Indicators	Percentage																																																																															
A7	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
A2	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
Category	Degree	Percentage																																																																															
A7	0	~5%																																																																															
A7	1	~85%																																																																															
A7	2	~10%																																																																															
A2	0	~5%																																																																															
A2	1	~85%																																																																															
A2	2	~10%																																																																															
知識披露型	 	知識披露型は、眺めに関連する知識を述べる傾向にある眺めである。そのため写真内そのものか写真外の場所における語りが多い。	<p>【行為指標】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Indicators</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>G3</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> <tr><td>C2</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> </tbody> </table> <p>【連想度】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Degree</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>G3</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>G3</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>G3</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> <tr><td>C2</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>C2</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>C2</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> </tbody> </table>	Category	Indicators	Percentage	G3	a, b, c, d, e, f, g	~75%	C2	a, b, c, d, e, f, g	~75%	Category	Degree	Percentage	G3	0	~5%	G3	1	~85%	G3	2	~10%	C2	0	~5%	C2	1	~85%	C2	2	~10%																																																
Category	Indicators	Percentage																																																																															
G3	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
C2	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
Category	Degree	Percentage																																																																															
G3	0	~5%																																																																															
G3	1	~85%																																																																															
G3	2	~10%																																																																															
C2	0	~5%																																																																															
C2	1	~85%																																																																															
C2	2	~10%																																																																															
		B2の眺めについては、1枚だけのクラスターであったため、特性のわからなかった眺めとする。	<p>【行為指標】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Indicators</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>B2</td><td>a, b, c, d, e, f, g</td><td>~75%</td></tr> </tbody> </table> <p>【連想度】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Degree</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>B2</td><td>0</td><td>~5%</td></tr> <tr><td>B2</td><td>1</td><td>~85%</td></tr> <tr><td>B2</td><td>2</td><td>~10%</td></tr> </tbody> </table>	Category	Indicators	Percentage	B2	a, b, c, d, e, f, g	~75%	Category	Degree	Percentage	B2	0	~5%	B2	1	~85%	B2	2	~10%																																																												
Category	Indicators	Percentage																																																																															
B2	a, b, c, d, e, f, g	~75%																																																																															
Category	Degree	Percentage																																																																															
B2	0	~5%																																																																															
B2	1	~85%																																																																															
B2	2	~10%																																																																															
			<p>凡例</p> <table border="1"> <tr> <td>■ a 環境の定位</td> <td>■ 連想度 0</td> </tr> <tr> <td>■ b 環境の変化</td> <td>■ 連想度 1</td> </tr> <tr> <td>■ c 環境の印象 / イメージ</td> <td>■ 連想度 2</td> </tr> <tr> <td>■ d 環境の知識</td> <td>■ 連想度 3</td> </tr> <tr> <td>■ e 環境の要望 / 希望</td> <td></td> </tr> <tr> <td>■ f エピソード記憶</td> <td></td> </tr> </table>	■ a 環境の定位	■ 連想度 0	■ b 環境の変化	■ 連想度 1	■ c 環境の印象 / イメージ	■ 連想度 2	■ d 環境の知識	■ 連想度 3	■ e 環境の要望 / 希望		■ f エピソード記憶																																																																			
■ a 環境の定位	■ 連想度 0																																																																																
■ b 環境の変化	■ 連想度 1																																																																																
■ c 環境の印象 / イメージ	■ 連想度 2																																																																																
■ d 環境の知識	■ 連想度 3																																																																																
■ e 環境の要望 / 希望																																																																																	
■ f エピソード記憶																																																																																	

図6.5 クラスター分析による眺めの想起特性

15枚の眺めを撮影された対象からA建物、B寺・神社、C点景、D街路、E眺望、F水路、G樹木・河川の7つのグループに分けていたが、クラスター分析の結果、眺めの種類と想起特性には明確な関連性は見られなかった。眺めに対する想起特性は、眺めの対象だけでなく、眺めとして切り取った写真に写っているものも想起のし方に影響してくるのではないかと考えられる。

表6.2 各写真のラベルの割合

	A1	A2	A6	A7	B1	B2	C2	C4	D1	D2	E1	F1	G1	G2	G3
連想度0	41%	26%	40%	24%	34%	43%	44%	27%	43%	40%	34%	40%	43%	37%	32%
連想度1	17%	53%	34%	55%	34%	41%	12%	31%	31%	48%	31%	26%	32%	46%	16%
連想度2	41%	18%	23%	19%	26%	11%	28%	40%	21%	11%	34%	28%	25%	16%	48%
連想度3	0%	3%	2%	3%	6%	5%	16%	2%	5%	2%	0%	5%	0%	2%	4%
a環境の定位	15%	3%	11%	4%	8%	19%	16%	3%	16%	2%	11%	11%	7%	3%	20%
b環境の変化	7%	8%	0%	8%	6%	0%	4%	6%	5%	12%	11%	4%	12%	10%	4%
c環境的印象/イメージ	30%	20%	21%	12%	12%	41%	16%	27%	14%	15%	21%	37%	18%	18%	16%
d環境の知識	28%	20%	23%	34%	42%	16%	43%	31%	31%	40%	29%	21%	42%	37%	40%
e環境の要望/希望	4%	21%	17%	15%	6%	8%	6%	3%	12%	8%	7%	5%	4%	3%	4%
fエピソード記憶	17%	29%	28%	27%	26%	16%	14%	29%	22%	23%	21%	23%	16%	29%	14%
ラベル総数	38	47	34	54	37	31	42	44	45	50	22	44	56	44	43

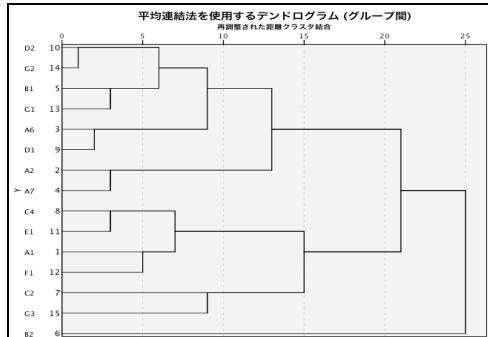


図6.6 眺めの種類と想起内容に関するクラスター分析の結果

7. 結論

本研究では、地域の眺めに対する住民の想起のし方に関して分析してきた。本研究において以下の点が明らかになった。

- 1) 眺めをみた際に想起する内容は、意味記憶とエピソード記憶に分類される。その中でも意味記憶は、環境の定位、環境の変化、環境の印象/イメージ、環境の要望/希望の5つの意味指標に分類される。
- 2) 地域の眺めに対する想起は場所・風景連想展開型、要素連想飛躍型、エピソード・体験回想型、知識披露型の4つの型に分類される。

8. 今後の課題

本研究では、被験者が12名と少なく、またほとんどがWS参加者であり被験者にWSと関連した実験である印象を与えたため被験者の集め方を工夫する必要がある。

また、本研究では実験に用いる写真が想起に大きく影響するため写真の撮り方や選択方法を検討しなければならない。

＜参考文献＞

- 1) 建部謙治：生活空間における心象風景と地区特性との関連—子どもの心象風景に関する研究その1－、日本建築学会計画系論文集、第565号、pp.217-223、2003
- 2) 佐々木葉：私の風景の日常性と地域景観認識モデル、景観・デザイン研究講演集No.8、pp.149-155、2012
- 3) 中村良夫、山田圭二郎、萩下敬雄：景観認識における意識の連関と生成に関する基礎的研究、土木計画学研究・論文集 No.17、pp.541-546、2000
- 4) 寺西敦敏、松本直治、西村匡達：都市の心象風景の形成・想起要因に関する研究、日本都市計画学会学術研究論文集、pp.721-726、1992
- 5) 藤井元希：プロトルコ分析を用いた地域イメージの想起プロセスに関する研究、2013
- 6) 平成24年版恵那市統計書
- 7) 恵那市HP <http://www.city.enag.jp>
- 8) 弓野憲一：記憶の構造と検索過程、株式会社 風間書房、1992
- 9) コミュニケーション研究法、株式会社ナカニシヤ出版、2011